

## 2020（令和2）年度 神戸親和女子大学附属親和幼稚園学校評価について

神戸親和女子大学附属親和幼稚園は、2020（令和2）年より認定こども園に移行し、新たなスタートを切ることになりました。神戸親和女子大学附属親和幼稚園として幼児教育の充実を目指した取り組みに加え、認定こども園になったことで長時間保育、午睡、シフト勤務など新たに取り組むことになりました。経験年数の浅い教員集団ですので、まだまだ課題も山積しています。大学との綿密な連携の下にお互いに連絡をとりながら専門的な視点から意見を聞き「学校評価報告」を作成し、神戸親和女子大学附属親和幼稚園運営委員会において承認されましたので公表いたします。

学校評価表の項目といたしまして、「認定こども園としての在り方を創造する」「安全・保健教育の充実」「子育て支援の充実」「特色教育」を掲げています。

さらに「重点目標」とその内容の「取組の状況・成果・課題」を記述しました。それら进行评估し、「改善策」と「幼稚園運営委員会」でいただいたご意見を表記しています。

今年度、認定こども園としてどのように取り組んでいけばよいのかを考えながら、まずは『教育共通時間の充実』としては昨年に引き続き、直接体験、考える体験ができる保育の工夫、環境構成に努めてきました。試行錯誤ができる空間や時間の確保など自ら育つ環境構成のあり方についても工夫してきました。新たに『長時間保育の工夫』としては手探りながら、子どもたちが安定・安心して生活できる環境づくりに取り組んできました。今年度は新型コロナウイルス対策のため、今まで以上に幼稚園の衛生環境づくり、安全環境づくりに時間をかけ取り組んできました。

また、「子育て支援の充実」の一つとしてキンダーカウンセラーによる子育て相談会を実施したところ、多数の申し込みがあり、子育ての悩みの解消の一助につながっていると感じています。「特色教育」の一つの『英語』の時間を毎週設けたことで、遊びの中でも英語を使っていたりするなど英語が身近なものになっている子どもの姿も見られるようになってきています。他の活動においても子どもたちが楽しみながら、学べる環境、育ち合える環境づくりの途上にあるため今後も引き続き広い視野に立った保育の創造に努めていきたいと考えています。

一人ひとりの命が輝くように子どもたちを大切に育て、保護者・地域・大学関係者等と共に連携しながら精進してまいりますので、今後とも神戸親和女子大学附属親和幼稚園に皆様のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年3月31日

認定こども園

神戸親和女子大学附属親和幼稚園

園長 阪上素子

今年度の目標

『自ら考え、行動できる子どもの育成』

『課題意識を持ち、課題解決能力を持った教師集団づくり』

項目	重点目標	取り組み状況・成果・課題	評価	改善策	幼稚園運営委員会でいただいた意見等
認定こども園としての在り方を創造する	教育共通時間の充実	発達段階に即した保育内容の創造し、育ちを保証していく。積極的に環境にかかわって遊びを進めていける保育内容を工夫していく。 豊かな経験ができる保育の工夫	B	<p>クラスの実態に即した保育内容の工夫に取り組んできた。クラスの課題を意識した活動、長期的な活動、身近な環境（自然環境）を生かした活動、外部講師による継続的な活動（英語・体育・リズムジャンプ・リトミック・造形等）など年齢や季節に合わせた活動をくふうしてきた。保育の工夫と幼児の育ちを確かめ見直しながらより充実した保育の創造に努めていきたい。</p> <p>クラスの全員が経験を共有したり、一人一人の興味に即した遊びを尊重していったりなど遊び方も年齢、経験を考慮し展開していけるように計画していった。取組み時期や期間、方法についてはまだ課題が残っているので引き続き見直し、工夫をしていきたい。①</p> <p>副担任制になり、複数の見方ができ幼児理解が深まり、個別のかかわりが持ちやすくなった。年少の幼児には安心できる人的環境にもなった。担任との連携のとり方においてはまだ課題があるので今後方法を工夫していく必要性を感じる。②</p>	<p>①教育共通時間では、できるだけ計画的な保育が求められるでしょう。現状の保育を継続していくことが基本です。</p> <p>一方、午後の保育においては、できるだけ子供の自然な生活や自由で緩やかな遊びの時間を過ごすことが大切です。</p> <p>②幼児理解は保育の根本です。お互いに情報交換をし、子供理解を深めていくことが重要です。ときに、カンファレンス等も行ってもいいでしょう。</p>
	長時間保育の工夫	7:00～9:00,14:00～19:00 の保育時間を子どもの負担にならない、家庭保育の延長線上にある環境づくり、健康管理、午前中の保育との連携	B	<p>午前保育と午後保育の担当が変わることで、体調などの申し送りの時間が取れず、バタバタすることがあった。①</p> <p>年少クラスでは午睡に入る幼児、14 時降園する幼児がクラスに混在するのでどうすればよいのか試しながらいろいろな方法で取り組んでいるが、課題は残されている。②</p>	<p>①申し送りの時間を適宜とすることは難しいと思います。パソコン等を活用して、回覧することも考えてはどうでしょうか。</p> <p>②認定こども園の独自性ですね。明日に向けての伝達事項等の時間の確保は、それぞれの保育</p>

		保護者への連絡方法の工夫		<p>保育内容についても、子どもの安定を一番に考え試してきているが、引き続き工夫が必要である。③</p> <p>2・3号保護者への対応のため担任が遅番出勤し、直接保護者と顔を合わせ話ができる機会を作っている。</p>	<p>が終了するときにするのがよいのでは。</p> <p>③2号・3号こどもへは家庭的保育が基本ですが、2号・3号こどもの遊びを翌日の午前の共通時間保育に生かすなどの工夫をすればどうでしょう。</p>
	園内研修の充実	<p>研究保育や研修会参加を積極的にいき、資質向上を図っていく。</p> <p>学年研修・全体研修などを実施</p>	B	<p>昨年度の反省の下、研究保育の協議会を工夫したり、生活発表会についても事前研修を行ったりし、学年で共通理解した上で取り組みにあたることで、相互の刺激にもつながった。また、実践検討会を実施し、保育への取り組み方、幼児理解など交流を行い資質向上につながっていている。三田市私立幼稚園協会で行った公開保育研修会を実施し近隣の幼稚園、小学校の先生方にも保育を参観いただき、協議会では意見交流をすることができ、幼稚園としても刺激を受け今後の取り組みに活かしていくことができた。</p> <p>職員アンケートから、特別支援教育や人権研修などはできていないという結果が出ており、学年研修・全体研修などもまだ十分できていないので、計画的に進められるよう次年度に向けて準備検討していきたい。</p>	
安全・保健教育の充実	園内環境の衛生管理	<p>保育室、遊具等の消毒の徹底積極的に清掃に努める。</p> <p>手洗い、手指消毒の徹底と指導</p>	B	<p>コロナ対策の方法を職員とも検討しながら、園としてできること必要なことを共通理解しながら取り組んできたが、安心できるほどにできたかというところも難しかった。</p> <p>プラズマクラスター空気清浄機、オゾン消毒、次亜塩素酸による玩具等の消毒などや手洗い、手指消毒、マスク着用などの指導を行ってきた。給食時に密になりやすいことから年少児は1号と2号の部屋を分けたり、食事時の会話を制限したりなど工夫してきた。</p>	<p>園長・副園長をはじめ、子ども達と接する保育者が徹底して玩具等の消毒などや手洗いをおこない、子ども達には手指消毒、マスク着用などの指導をおこなっていた。</p> <p>加えて、プラズマクラスター空気清浄機の設置など、園として可能な限りの対策をおこなってきたように感じられる。</p> <p>保育の中で蜜を避けることを園児に理解さ</p>

				園児数から日々の保育中には密を避けることは難しいことが多かった。	せることは難しいと思うが、丁寧な指導の中で密を避ける保育指導の工夫を願う。
	生活習慣の確立	<p>健康な生活ができるために生活習慣を身に付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うがい手洗いの徹底</li> <li>・歯磨き指導</li> <li>・身辺整理を進んでする</li> <li>・栽培した野菜を食すことを通して食べ物を大切にすることにつなげる。</li> <li>・安全教育を実施し、緊急事態にも安全を意識した行動がとれるようにしていく。</li> </ul>	A	<p>うがい手洗いに関してはコロナ対策としても重視していたのでできるようになってきている。しかし、スタートが遅かったことで予定していた活動が実施できていないこともあった。</p> <p>安全教育については幼稚園が通常保育になってからは計画的に避難訓練も実施しているが、例年よりは回数が減り、結果的には実施できていない訓練もあった。園内での避難方法については身につけてきていると考える。</p> <p>他の安全・保健教育については不十分なところもあるので、次年度につなげていきたい。</p>	<p>生活習慣の確立に関しては、コロナ対策と重複する点については、十分に実施できていたと考えられる。また、安全教育についても、通常保育ができるようになってからは計画的に実施できている点は評価ができる。</p> <p>今回のコロナ感染症への対策のように、これまでの想定を超える事態への対処も念頭に入れ、今後の安全教育を模索できるように検討いただくと、さらによりよい活動になるといえる。</p> <p>うがい手洗いは水道の整備も改善し、園児が昨年度までより取り組みやすくなったことと思われる。保育者の指導だけでは生活習慣を身につけることは無理なこともあるので、施設整備も完了し、一人一人に丁寧に取り組んでいただきたいと思う。</p> <p>避難訓練・引き渡し訓練など、継続は力なり。計画通りに実施していただくことを願う。</p>
子育て支援の充実	配慮を必要とする子どもへの援助	キンダーカウンセラーや巡回相談を積極的に受け入れ、配慮を要する園児が生活しやすい環境となるよう考えていく。	B	<p>配慮が必要と思われる子どもについては積極的にキンダーカウンセラーにつなげていき、適切なかかわりができるよう進めてこられた。情報共有し、日々の取り組みに活かしていつている。</p> <p>しかし、まだまだ工夫の余地は残されているので今後も引き続き取り組みを進めていきたい。</p>	<p>カウンセラー、保護者、担任の3者の関係性を大切に、次年度も取り組んでい頂ければと思う。</p> <p>どのような工夫の余地が残されているのかの記載があれば、第三者も理解しやすいのではないだろうか。</p>

					<p>キンダーカウンセラーの相談など、子どもたちそれぞれのニーズの把握に努め、情報共有を行っている点は高く評価できる。今後、個別の支援計画の作成を行う中で、長期目標・短期目標を明確にした保育実践を行うことで、保育の質向上にもつながると思われる。</p>
	教育内容、子育て情報などの発信の工夫	HPやお手紙などで、幼稚園の生活を紹介したり、子育てに役立つ情報を発信したりしていく方法を工夫していく。	B	<p>HP・クラスだより・園長だより、学期ごとのドキュメンテーションなどで発信しているが、まだ十分とは言えないので今後、保護者のニーズを探りながら何をどのように伝えていくかを工夫していく必要性を感じている。</p> <p>子育て相談の実施をお知らせすることで個別には役立つ情報発信になっている。</p>	<p>ドキュメンテーションは、保護者のみではなく保育者の子ども理解にも深くかかわるところなので、可能な限り発信することで共通理解（園の保育方針や子どもの姿等）を深めて頂けたらと願っている。</p> <p>HPやクラスだよりなどの発行を通して、園の理念や園生活の様子を保護者に周知できていることは評価できる。保育者の意図、保育実践の様子が十分に伝わるように、様々なツールを活用に併せ、保育者の子どもの姿を見とる力についてもますますの向上が期待される。</p>
	子育て相談の実施	臨床心理士や職員による相談会を計画的に実施していく。	A	<p>教育相談を募集したところ、日ごろの子育てに悩みを持っておられる方の申し込みが多くみられ、キンダーカウンセラーの活用が活かされていた。</p>	<p>保護者の子育ての悩みに寄り添い、キンダーカウンセラーを十分活用した点、評価できる。引き続き取り組みを行うことで、よりきめ細やかな子育て相談が行えることが期待できる。</p>
特色教育	英語で遊ぼう	ネイティブによる遊びを通じた英語指導	A	<p>フォニックスを活用した年間計画の下、継続的に週1回のレッスンを実施。歌や遊びを通して耳から学ぶことを重視している。遊びを通してしているので、どの学年でも参加しやすく、楽しい時間となっているが、満3歳児クラスではレッスン時間の見直しをしていくこととなった。</p>	<p>ネイティブ講師との関係性も良好で、幼児たちも遊びを通して楽しむことができていく状況が窺える。但し、満3歳児クラスでの見直しなど、今後は、英語活動をどの学年で実施することが適切かつ効果的であるか再考していく</p>

					必要がある。
	リズムジャンプ	リズムジャンプトレーニングを通して、体幹を鍛えたり、リズム感を養ったりし、体を動かす楽しさを味わう。また、集中力、友達と協力していく大切さを身に付けていく。	A	年長・年中は月に1回のリズムジャンプの経験をする。子どもたちには大好きな時間となり、遊びの中で先生役をし、スタートの合図を送りながら遊ぶ姿が見られ、体を動かすことの楽しさを体験できている。合図を聞く、リズムに合わせる、順番を守るなど友達と一緒に楽しむことができている。年長児が年少児に見せたり、教えたりする姿も見られ自信につながっていると推測される。	幼児たちが楽しめる活動を継続していくことで、体を動かすことへの積極性が増しているように見受けられる。また、本活動は、幼児自身の健康増進のみならず、社会性の育成にも多いに寄与していることが伺える。
	体操	全身運動を通して身体を動かす楽しさを味わい、健康な体作りをしていく。	A	クラスごとに外部講師による満3・年少は月2回、年中・年長は月1回の体操を実施。体育遊具を使ったり、ゲーム遊びしたりして体を動かすことが楽しくなる活動に取り組んできた。初めてのことに警戒したり、不安に感じたりしていた子どもも慣れるに従い、積極的に活動に参加するようになり体操を楽しみにする姿が見られている。活動内容が偏らないよう今後も続けていきたい。	外部講師による専門的な指導の下で、幼児たちが体を動かすことができている。満3歳児から年長まで継続的に活動がおこなわれることで、年齢に応じた運動能力の増進が図れると考えられる。今後は、外部講師と担任教諭との連携も必要である。
	環境教育	園内の環境、近隣の公園などを活用し、自然に触れたり、自然環境を活かして遊んだりし、自然に興味を持ったり、学んだりしていく。 エコ学習を通して、物や自然を大切にすることを学び、自分の生活を見直していく。	B	園外に出かけていく機会は減っているが、虫取りや木の実拾いなど近隣の公園に出かけて遊んだり、制作材料にしたりなどして遊んできた。年長児は三田市野外活動センターでデイキャンプを行い川遊びや山の散策など自然を感じながら遊ぶことができた。 カブトムシの飼育を通して、幼虫・さなぎ・成虫になっていく様子を見たり、触れたりし身近に感じることもできた。草花や野菜の栽培を通して、変化に気づいたり、興味を持ったりなどする姿が見られた。エコ学習には今年度は十分取り組むことができなかったので次年度取り組んでいきたい。	可能な限り自然環境と幼児たちが関わりを持つことができるように配慮されていると感じる。また、エコ学習については様々な側面があり、日々の生活のなかで物を大切にすることを保育者が子ども達に伝えることは十分にできているため、今後の活動に期待ができる。